

テクノロジー諮問委員会（第3回） 議事要旨

日時：2016年9月26日 8:00-10:00

場所：組織委員会虎ノ門オフィス役員会議室

議論内容（委員の主な意見）

【議論テーマ1】

「リオ2016大会視察報告と東京2020大会に向けた課題」について

- リオパラリンピック大会を視察して感じたことだが、いろいろな意味でパラリンピックのレベルが上がってきている。遅れている最後の選手がゴールするまで観客の声援が盛り上がっていた。社会の価値観を変えるというのも一つのテーマだと感じた。
- 閉会式は演出のための人員もコスト削減のために減らされたと聞いている。そのため、現地では演出に非常に苦勞したのではないかと思う。リオオリンピックの閉会式で総理がマリオに扮した演出は良かったと思う。
- 閉会式はブラジルの国民性もあると思うが、非常に盛り上がっていた。東京によるフレームを使った演出やダンスの演出がクールだった、という現地の評判。また、安倍総理の演出は、国を揚げて取り組んでいると印象づける効果があったようだ。
- リオ大会の収支状況については11月末に行われるリオ大会のデブリーフィングにおいて報告があると思う。

（以降はテーマ2と併せて議論）

【議論テーマ2】

「テクノロジーに関するメッセージ・フィロソフィーをどう発信していくか」について
（アイデア抽出の方法に関する内容）

- アイデアソン等で機運を盛り上げていきたいと聞いたが、決められた枠の中でアイデアを出す必要があることを、あらかじめ伝えておくことも重要だと思う。例えば、アプリケーション開発が活性化されると、後々、組織委員会にデータのオープン化が要求されることも考えられるが、作ったものを公式認定することで、世の中に公開できるか、などを予めシミュレーションしておくことも必要。
- 組織委員会としては、まずは大会運営に役立つアイデアかどうかで評価することになると思う。出てきたアイデアを引き取り、組織委員会やスポンサーでモノにしていけるが、要所要所でアイデアを出した学生チームの参画を促す。一方で、せっかく出たいろいろなアイデアを大会運営以外にも活用・事業化できないかをフォローする仕組みも必要だと思う。イベントをきっかけに立ち上がることを期待する学生のコミュ

ニティ活動を、イベント後も持続可能にするための仕組みも必要。IOC からも NPO 法人 ETIC などが進める社会企業家の育成活動との連携を推奨されている。第 2 回目以降のイベントでも、ボランティア文化醸成や障がい者スポーツ促進、復興支援といった大きな社会的テーマを扱いたい。組織委員会だけでなく、スポンサー企業や NPO 法人を巻き込む必要がある。

(競技のスタッツデータの活用に関する内容)

- 国内においてスポーツのスタッツデータの流通や活用は、まだルール整理も不十分だと思う。テーマによっては、そこに触れることも必要になってくると思う。
- リオパラリンピックは予算の制約もあり、計測したスタッツデータもあまり充実していなかったという印象。競技情報システムやメディアのオペレーションが関連するので、一気に解決することは難しいが、国際競技連盟等とも連携が必要かと思う。
- スタッツデータに関して、聞いたところでは一部を除いて極めて基本的なデータしか活用されていないらしい。スタッツデータを活かして、スポーツのサイエンスを大きく進化させる大会にするために、我々は何ができるのか。
- 特に世界ランクの高い競技種目では、トップアスリートのスタッツデータは、門外不出であり、何を測定しているかさえも知られたくないような世界である。ただ一部の競技連盟では、競技人口を増やすことを狙ってスタッツデータの一部公開に積極的な声も聞かれる。その際の課題は、比較的専門的なスタッツデータを一般の観客にどう分かりやすく見せるかの知恵が必要ということ。
- またスタッツデータ収集にかかるコストも課題。動画から自動的にスタッツデータを抽出する技術も出始めているが、まだかなり限定的で、ほとんどは撮影した映像から手作業でデータを起こしてる。
- いろいろなスタッツデータがあったとしても、国ごとの競技人口の違いなどもあり、観客によって視点も興味も違うことに考慮が必要。
- たしかに国ごとにテレビに映る映像も全く違う。テレビに映るものだけが真実ではないだろう。

(SNS の活用に関する内容)

- 震災の時に、住民がつぶやいたりし膨大な情報が出てきたというのがあった。色々な情報が集まってきたときに、それをどう共有するか、逆にどう取捨選択していくか、という課題もある。
- 災害時には競技場が避難場所になることも想定されるため、競技場の ICT 環境整備にもその観点が必要。
- (競技の記録や観客のつぶやきを) デジタル化をするというのはいい機会。デジタルをいろいろな人たちに伝えたい。デジタルに関係ない人たちにも伝えるべき。デジタルはなかなか人に伝わらない。当たり前のことではあるがそれを伝える手段があればいいと思う。どうしたらそれが伝わるのか、良いアイデアが欲しい。IT 関係者以外の

人にも理解できるようなメッセージが必要。

- Jリーグの試合で調査をしたが、世代別でソーシャルメディアのエンゲージメントが異なる。たとえば10代では9割ほどがスタジアム内でSNS上に写真や動画を投稿したり、試合の感想をつぶやいたりしている。若者の関与としては、デジタルメディア利用の制約がどうなるかが非常に大きいと思う。4年後、たとえばYouTubeやInstagramや、あるいは新しく出てくるSNS等への投稿が可能になるのであれば、いろいろな観客の感動や経験が記録され、作られたメディアとは別のものとしてデジタルのレガシーになる可能性もある。
- 制約を少しでも緩めることができれば、過去の大会に比べて圧倒的な情報発信力となる。
- 今時の学生は仲間同士でかたまっており、仲間に見てもらえれば、全員に見られなくても構わないという傾向が強いと思う。
- 小さな仲間同士でしかシェアされない情報がある一方で、その情報のいくつかが世界に配信されると思う。どれだけ多くの人が動画をアップロードするかがポイント。
- 最近行ったソーシャルメディアの調査では、1つ目は仲間に承認されたいという欲求、2つ目はより広く社会に向けて、Instagramやtwitterでハッシュタグをつけて投稿したいという欲求がある。自分の出したアイデアが公式ではないにせよ、ハッシュタグをつけることで同じ趣味や嗜好を持っている世界中の人とつながることもできる。複数のアプリを使って映画のワンシーンのように投稿するプロ顔負けの映像を発信している若者もいる。
- 大会では競技映像の利用制約も大きいので、大会本番ではなくて(会場周辺の映像など)ハードルの低いところから実現していくのも良いのでは。OBSが8月から始めたOlympic Channelなど、デジタルメディアの活用は確実に進みつつある。待っているだけではダメで、今利用できるコンテンツを考えなければならない。
- 見られていないコンテンツがオリンピックにもパラリンピックにもある。公式コンテンツと同じクオリティの映像が配信されるということではなく、通常30秒程度の各自が面白いと思った一部が切り取られ配信され、それを基に面白いと思った人が増えるのだと思う。入口のプロモーションとしてみんなでやりましょうということができないか。結果的には公式コンテンツを見に来る人が増えると思う。
- 観客席からだと迫力のある映像は撮ることができない。その状況を思い出すきっかけとして、公式の映像を見たいという気持ちになるのでは。
- 今まで守ってきたことが変わってきている。それが大会関係者にもプラスになるということをうまく合意できればいい。
- 組織委員会のモバイルアプリは、競技の動画は使えない。NHKのモバイルアプリでは利用可能だが。また、パブリックビューイングについてはジャパンコンソーシアムなどとの映像権利の調整が必要。

(その他の内容)

- リオの大会が終わり、東京大会を考えると 2019 年頃にチケットが販売され、2020 年に大会が実施されるまでのオリンピックライフサイクルとムーブメントを意識することが大事。これから 4 年間の大枠な計画を組織委員会から共有したうえで、スポンサー各社が展開するスポンサーシップ活動と全体のムーブメントをうまく活用し、連携していくことも重要。
- アイディアソンのみではなく、全体を考えることが必要。演出を含めどのような企画かはまだあまり考えられていない。アイディアソンは、他のところやエンゲージメントと連携をする意味で比較的早い段階で動いていると思う。この委員会で集まった意見を全体の意見として出せる機会があればよいと思う。

【議論テーマ 3】

「競技場 WiFi に関する進め方」について

- 競技場によっては、観客向け WiFi 環境は施設オーナーが個別に投資している。どの競技会場でも共通的に WiFi がつながるようにするには、仮設競技場も含め未整備の競技場をどうするか、個別に整備された環境をどうシームレスにつなげるか、が課題。
- 偽ホットスポットの目的は、銀行口座やクレジットカードの情報などを不正入手すること。これを防ぐためにも、たとえば大会用モバイルアプリケーションのダウンロードのタイミングで大会用共通 WiFi アプリケーションをダウンロードさせる、などが考えられる。
- 中国、韓国や東南アジアから来られる観光客向けには、事前登録によりアプリケーションをダウンロードしてユーザ登録してもらう仕組みを作ることが合理的なのではないか。東京に来たら自動販売機を使うので、クーポン等を付けるから事前にアプリに登録してほしい、という仕組みも良いと思う。(観光客が) 個別に SSID を選んでアクセスすることは欧米では普通になっている。我々が便利にしてあげようと思っていたら、欧米側が先に進んでいたとしたらマズイと思う。
- 施設オーナーと合意できれば、大会に向けて一時的にでも SSID を変えるなども物理的には可能では。
- 動画のアップロードに耐えられる WiFi 環境、認証が 1 回で済む環境、を整備しないといけない。またセキュリティの面を考えても、基地局が乱立した状態でユーザが混乱して偽の基地局を掴むことは避けるべき。
- リーバイズスタジアムでさえも、8 万人の観客が同時に WiFi へアクセスして動画を利用できる設計ではない。競技場ごとに実現すべきサービスレベルは濃淡があるだろう。新国立競技場等のメジャーな競技場に関してはそれなりの整備が必要か。
- 組織委員会への提言として、この課題は国にも関与してもらい、トップダウンで解決すべき。

【その他】

- リオ大会では、仮設の観戦席が多かった。東京大会でも観戦席を仮設で作った場合、地震が起きた場合は大変なことになると思う。リスクを考えるとレガシーのことも考えて仕組みを作ることが必要。
- ダイバーシティについて、ちゃんと考えた方が良いと思う。性的マイノリティ、身体障がい者など。テクノロジーで乗り越えていくという観点も取り入れていきたい。
- テクノロジーでダイバーシティを考えるということは重要なテーマ。具体的イメージをもう少し落とし込んで考える必要がある。具体的に何をすべきかを、次回以降で議論したいと思う。

【今後の対応】

次回は、12月開催で調整中